
恋人ヲ射チ墮トシタ日

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋人ヲ射チ墮トシタ日

【Nコード】

N4041C

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

その出会いは喪失への始まりだった…愛する者の為、女は彼に矢を向ける…

愛する人を喪った「世界」にはどんな色の花が咲くだろう…

目の前に広がる光景。彼女は手にした弓を握り締めた。

やらねばならない事は解っている。それが『彼』と交わした最後の約束。そして、それは彼が一番望んでいる事だった。

例えそれが、彼女にとっては呪われた約束だったとしても、叶えなくてはならない。

私がやらなくては…

彼女は背負っていた矢筒から矢を一本引き抜き、弓につがえる。

『避けられぬ終焉はせめて愛しいその手で…』

愛しいその人が告げた哀しい約束。それは『彼』が狂う直前彼女にした最初で最後の頼み事。だからこそ、叶えてやりたい。けれど、思いに反して彼女の頬を暖かな滴が伝い落ちる。

あの日、出会わなければこんな事には…

彼女の胸を後悔が過る。だがどんなに思っても、もう遅い。全ては出会った時から始まっていたのだ。時は決して戻らない。

けれど考えてしまう。二人が出会ったあの日。魔物に襲われかけた彼女を助けさえしなければ『彼』は…

【出会いは喪失への約束】

彼女の瞳から流れていた滴は、すでに止まっていた。そして、彼女は静かに銀色に輝く矢を放つ。何度も…唯『彼』が息絶えるまで…

『…ありがとう』

魔物と化した彼が倒れる寸前、そう言った気がした。

地に倒れ伏し動かなくなった『彼』の傍らに膝を付く。そっと彼の頬を撫でる。

人ではない恐ろしい姿。それでも『彼』に違いなかった。

大好きよ…

彼女は彼の唇に口付ける。だんだんと黒に近づく緋い滴が彼女の唇を濡らした。それは、彼がもう二度と目を覚まさない事を報せている様だった…

（後書き）

こんにちは。ここまで読んで下さりありがとうございます。さて、今回の話ですが如何でしたでしょうか？只今ネタ切れで、この機会に自分の好きな曲を元に書いてみよう、としたらこうなりました。知ってる人は知っている！（笑）ともあれ、知っている方も知らない方も読んで下さりありがとうございます。一言ご意見ご感想ありましたらよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4041c/>

恋人ヲ射チ墮トシタ日

2010年10月28日03時35分発行